

桂川っ子

VOL.34



「二年の計」にあいさつ運動を!

桂川町教育委員会

教育委員 鶴田 良夫

新年から早くも1ヶ月がたち節分を迎えようとしています。冬と春を分ける節分を迎えてもまだまだ厳しい寒さが続くものと思われます。町民の皆様には健康には十分留意されてお過ごしください。

さて、皆様は新しい年を迎え、「一年の計」を計画されていることと思えます。

昨年11月、ある地域の敬老会の懇親会にて近所のおばあちゃんが、私に次のような話しをしてくれました。「今どきの子どもたちはえらいネ。私が家の近くの野良仕事をしていると、学校帰りの見ず知らずの小学生たちが『こんにちは!』とあいさつしてくれました。今度は、私が先にあいさつしようと思つています。」というありがたい内容でした。



この話を伺って、「生き生き桂川っ子」総合推進事業の取り組みの一つである「あいさつ運動」が、桂川小・桂川東小・桂川中の児童・生徒に理解され、浸透し実践されている。このことが、地域の人々に広がりを見せているのではと感じました。さらに、たった5文字のあいさつが、「今度は、私が先にあいさつをしようと思つています。」と、絆を生み、そういったことが、子どもたちの見守り、安全・安心へとつながっていきます。

この「あいさつ運動」の灯が町内全域に広がるよう皆様の「二年の計」の一つに加えていただければ幸いです。

「宿題の定着率33%から」

桂川中学校校長 安永保之

本校の課題の一つに、宿題の定着があります。

小学校では宿題の取り組み時間のめやすは、学年×10分といわれています。それから考えますと、中学一年生では、1時間10分となります。基礎学力を身につけるには、授業で学んだことを繰り返し復習し、体に染み込ませることが必要です。

しかし、昨年9月のアンケート「あなたは、1日に(一年生50分以上、二年生80分以上、三年生100分以上)家庭学習をしていますか。」を行った結果、できている生徒は33%でした。

宿題はどのような目的で取り組んでいるかが重要ですが、1年生では国語・数学・英語を中心に自学プリントを宿題としました。これは、入学後の調査で生徒はどこにつまずいているのかをテスト分析をした結果から考えたものです。数学では、分数や少数の計算から始めています。

国語では、漢字を中心に小学校で学習した常用漢字1600個の再学習から始めます。中学校3年間で習得する常用漢字数は939個です。漢字を読み書きできても、文章を理解出来るとは限りません。そのため、二期期は短い文章を書き写す宿題です。主語、述語、修飾語、接続語の習得、そして、内容を理解することを狙っています。これができたら、自分の考えを文章化できる力が身につきます。

英語では、アルファベットから身近な単語と短文と変わっていきます。宿題は忘れた場合、昼休みや放課後に居残り学習を行っています。生徒の意識に定着したのか、二学期末は忘れる生徒はなくなってきました。

次の段階は、自学プリントから自学ノートへの発展です。宿題には、学習の系統性がありますので、習慣化がぜひ必要です。

習慣化するには、場所と時間の限定、励ましと賞賛をキーワードに現在、学校全体で取り組んでいます。